

# プログラムCDM (PoA)の現状 従来のCDMとの比較

ISAP 2010 持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム

2010年7月12-13日

浦山 智紗子

地球環境戦略研究機関  
市場メカニズムグループ

## プログラムCDM(PoA)とは？

### 従来のCDM



事業者A



バイオガスプロジェクト

### プログラムCDM(PoA)



# プログラムCDM(PoA)の特徴

特徴	従来のCDM	プログラムCDM
プロジェクト実施責任者	プロジェクト参加者(PP) (民間又は公的機関)	調整又は管理主体(CME) (民間又は公的機関)
登録後のプロジェクト追加	不可	CDMプログラム活動(CPA)の追加が可能 数的制限なし
登録料の支払い回数	一回(プロジェクト登録時)	一回(PoA登録時)
クレジット期間	全ての場所において 一つのクレジット期間	CPA個別のクレジット期間

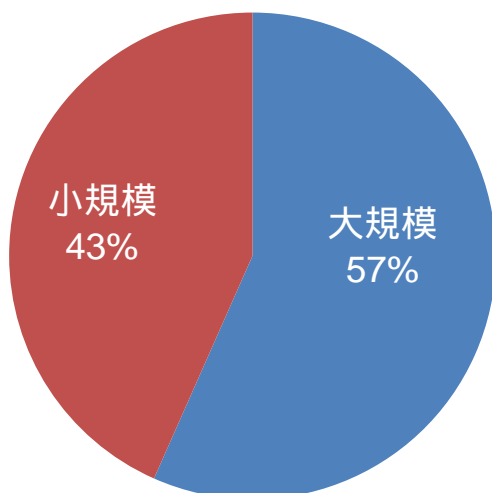
## ポイント

- プログラムCDM(PoA)が一度登録されれば、その下にCDMプログラム活動(CPA)と呼ばれるプロジェクトをいくつでも追加することが可能
- 同一のPoAの下に登録されているCPAはそれぞれ個別のクレジット期間を設定することが可能

3

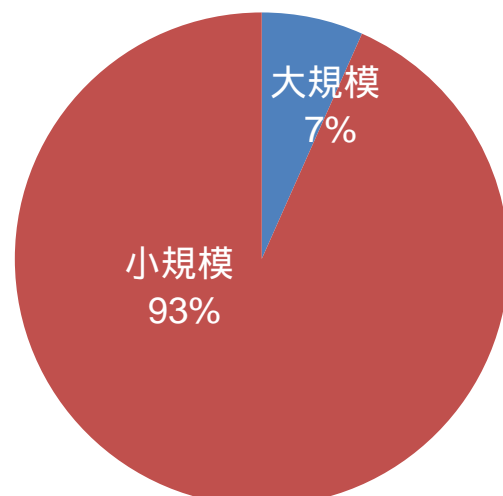
# 従来のCDMとPoAの比較:規模\*

**従来のCDM**  
n=2200 (登録済みプロジェクトのみ)



大規模:57%, 小規模:43%

**プログラムCDM**  
n=45 (バリデーション中も含む)

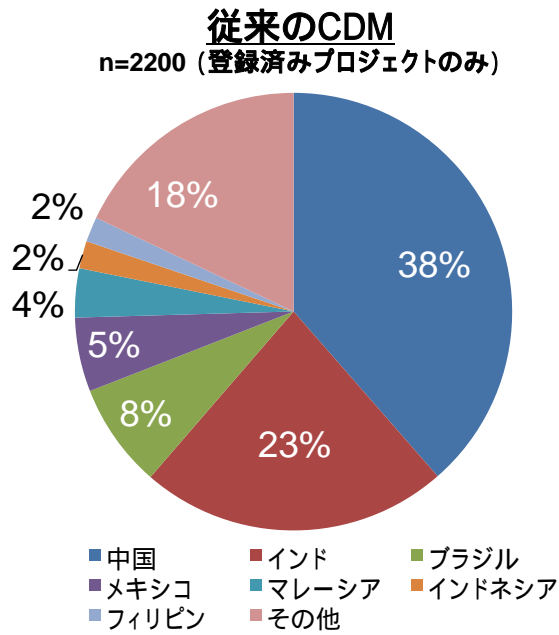


大規模:7%, 小規模:93%

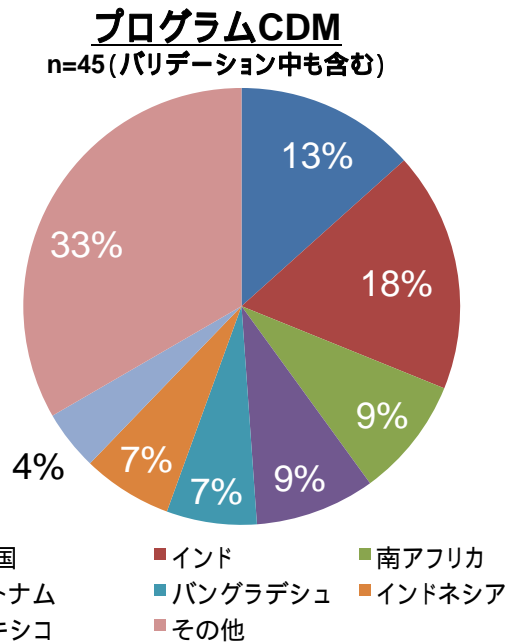
- 従来のCDM:大規模、小規模それぞれ半数ずつ
- PoA:小規模が大多数

\*2010年6月1日現在 4

# 従来のCDMとPoAの国別比較(1):件数\*



中国・インド:61%

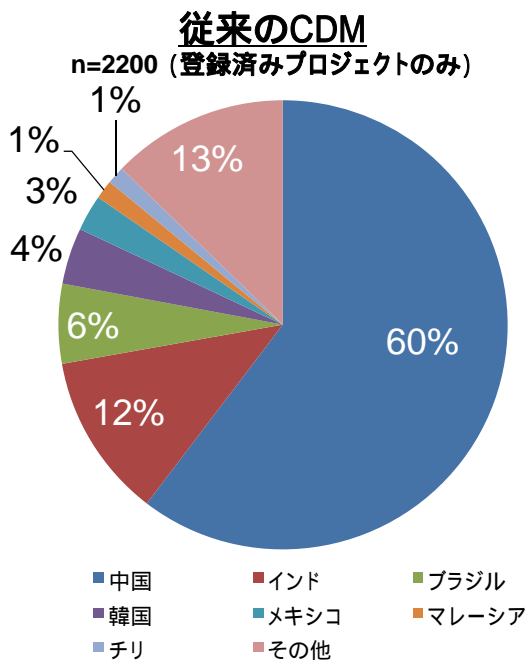


中国・インド:31%

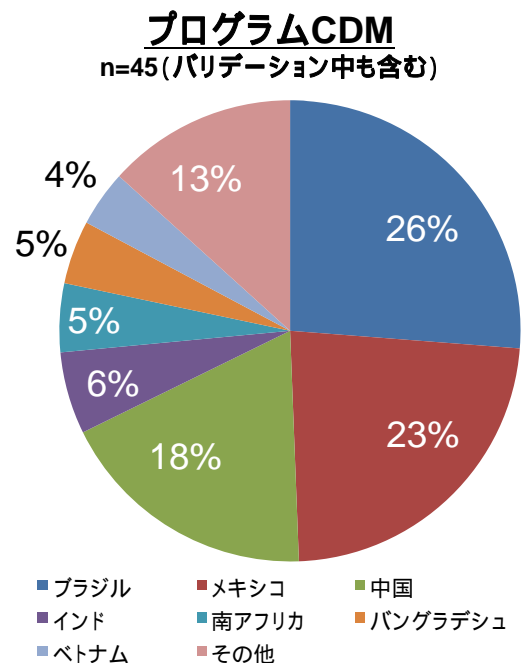
- 従来のCDM: 上位2カ国のシェアが圧倒的
- PoA: 比較的均衡のとれたばらつき

\*2010年6月1日現在 5

# 従来のCDMとPoAの国別比較(2):年間削減量合計値\*



アジア各国:81%

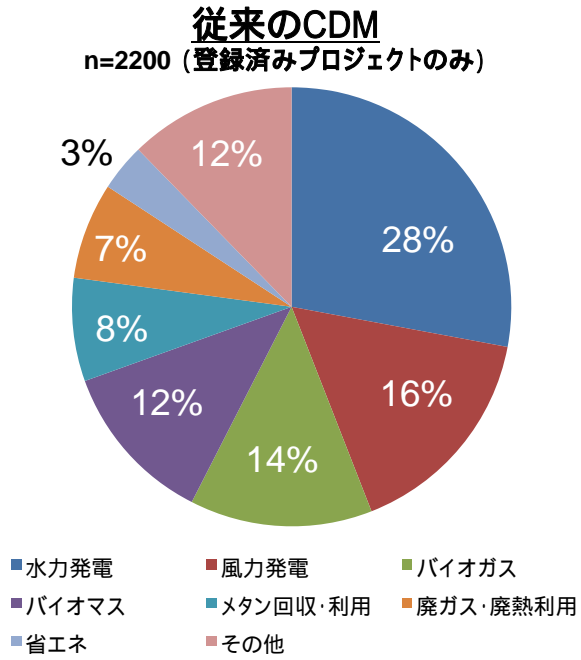


中南米各国:51%

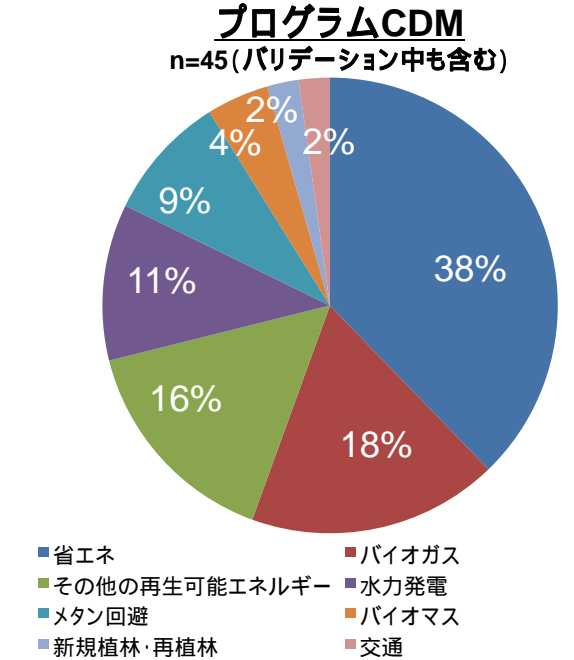
- 従来のCDM: アジア各国のシェアが圧倒的
- PoA: 中南米各国のシェアが圧倒的

\*2010年6月1日現在 6

# 従来のCDMとPoAの種類別比較(1): 件数\*



**水力・風力発電: 44%**

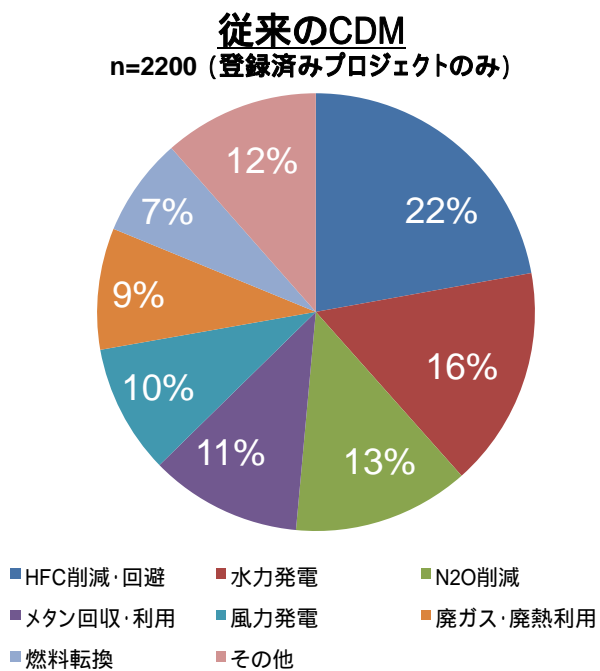


**省エネ・バイオガス: 56%**

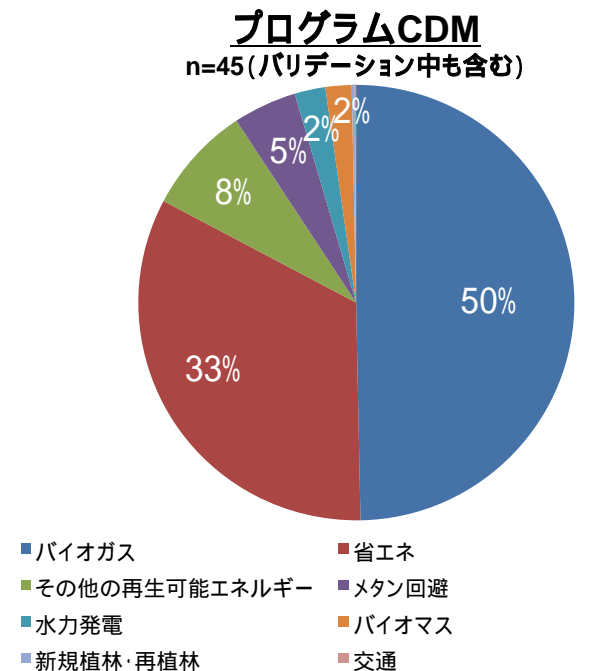
- 従来のCDM: 水力発電と風力発電が有力
- PoA: 省エネとバイオガスが有力

\*2010年6月1日現在 7

# 従来のCDMとPoAの種類別比較(2): 年間削減量合計値\*



**水力・風力発電: 26%**



**省エネ・バイオガス: 83%**

- 従来のCDM: 件数で上位の水力発電と風力発電の割合は少なめ
- PoA: 省エネとバイオガスは件数以上に大きなシェア

\*2010年6月1日現在 8

## 登録済みPoAに対するレビュー申請内容

現在登録済みのPoAである、**省エネ2件**(メキシコ・インド)と**バイオガス1件**(ブラジル)のうち、**省エネ(メキシコ)1件**、**バイオガス1件**がレビュー申請された

→ 2つのPoAに対するレビュー申請の内容は**ベースライン・モニタリング方法論**に関するもの

ベースライン・モニタリング方法論	申請回数	該当するPoA
方法論の適切な使用	2	省エネ バイオマス
排出係数の更新	1	省エネ
排出削減量の計算係数	1	バイオガス
モニタリング計画	1	バイオガス

- **方法論の適切な使用が最多のレビュー申請で、これは従来の省エネ・バイオガスCDMについても同様**

(レビュー申請内容の分類は2010年6月1日現在の「IGES CDM 再審査・却下プロジェクトデータベース」に基づく)

9

## プログラムCDMの分析結果

- PoAは従来のCDMに比べて小規模プログラムが大多数で、**小規模プロジェクトのCDM化を促進**
- プログラムCDM(PoA)は従来のCDMで問題とされている**地域間の不均衡を改善**
- PoAでは件数と年間削減量に比例関係
- バイオガスと省エネプロジェクト/プログラムに対するレビュー要請に関しては従来のCDMもPoAも同様の傾向

**結論**

- PoAは従来のCDMの地域間の不均衡を解消し、小規模案件のプロジェクト化を促進する可能性
- しかし、PoAはまだ新しい制度で、今後どのように、従来のCDMの問題を改善しながら発展していくのか注目すべき

10